

平成 27 年 1 月 29 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 5 回「水素安全対策高度化」特別専門委員会
開催日時	平成 27 年 1 月 14 日(水) 13:30~15:30
開催場所	三菱総合研究所 4 階 CR-E 会議室
参加人数	11 名 村松主査、小川幹事、西村委員、杉本委員、小林委員、新山委員、発表者 1 名、事務局 4 名
議 事	<p>1. 主査挨拶 村松主査が開催挨拶を行った。</p> <p>2. 前回議事録確認 事務局が前回議事録の説明を行った。</p> <p>3. トピックス 水の放射線分解による水素発生に関する研究開発の最前線 (JAEA 永石)</p> <p>4. 一般公開セミナー報告 事務局がセミナーの実施報告を行い、質疑応答が行われた。 ・3月の春の年会企画セッションで公開セミナーの開催報告を準備している。強調すべき点として、欧州では水素安全に注力して検討しており、フィンランドでは約 10 年前から、リークした水素の格納容器外での爆発による周囲への影響を検討しており、水素に関する注目度が日本と異なると感じた。 ・福島第一原子力発電所事故の課題を欧米で整理しているので、それと日本の問題意識を照らし合わせる必要があるのではないか。 ・日本では NUPEC 試験が過去の知見の中心であり、IAEA でもこの試験の位置づけを記載しているので、不十分な点を把握する必要がある。それは、この特別専門委員会のような専門家間で議論すべき項目である。</p> <p>5. 日本原子力学会 2015 年春の年会企画セッション説明 事務局より、春の年会の企画セッションの開催計画を報告した。</p>
備 考	

平成 27 年 1 月 29 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 4 回「水素安全対策高度化」特別専門委員会
開催日時	平成 26 年 11 月 27 日(木) 13:30~15:30
開催場所	三菱総合研究所 4 階 CR-A 会議室
参加人数	18 名 村松主査、小川幹事、荻野委員、西村委員、成宮委員、小林委員、中田委員、藤井委員、中村委員、新山委員、発表者 1 名、事務局 7 名
議 事	<p>1. 主査挨拶 村松主査が開催挨拶を行った。</p> <p>2. 前回議事録確認 事務局が前回議事録の説明を行った。</p> <p>3. トピックス 水素の燃焼・爆発の特徴(長岡技科大 門脇教授)</p> <p>4. 一般公開セミナーの準備状況 事務局がセミナープログラムと会場の紹介、参加申し込み状況報告を行った。</p> <p>5. 全体討議</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 次回以降の委員会では、放射線分解による水素発生機構の紹介やハンドブックの構成や目次を紹介して、意見を収集したいと考えている。</li></ul> <p><input type="checkbox"/> 今後のセミナーや委員会で、トピックにすべきことがあれば、意見を願いたい。</p> <p><input type="checkbox"/> セミナーでの HYGOSAM に関する講演では、PAR の紹介だけでなく、水素濃度モニターについても触れてもらいたい。また、セミナー前半の村松主査の講演では、セミナープログラムの紹介というよりは、水素安全にかかわる本事業全体の概要を説明してもらおう方がよいだろう。</p>
備 考	

平成 27 年 1 月 29 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 3 回「水素安全対策高度化」特別専門委員会
開催日時	平成 26 年 9 月 19 日(金) 13:30~15:40
開催場所	三菱総合研究所 4 階 CR-D 会議室
参加人数	18 名 村松主査、小川幹事、杉本委員、小林委員、荻野委員、中田委員、中村委員、奈良林委員、新山委員、発表者 1 名、オブザーバー 1 名、事務局 7 名
議 事	<p>1. 主査挨拶 村松主査が本委員会の趣旨説明を行った。</p> <p>2. 委員自己紹介 各委員から自己紹介があった。</p> <p>3. 前回議事録確認 事務局が前回議事録の説明を行った。</p> <p>4. トピックス 1) EU の水素安全プロジェクト HYCOSAM への参加(JAEA 日野) 2) 水素爆発減災システムの野外実験 (名古屋大 吉川)</p> <p>5. 平成 26 年度の計画 村松主査が平成 26 年度計画の説明を行い、質疑応答が行われた。 ・ 一般公開セミナーでは、水素燃焼と触媒にかかわる研究開発がトピックスになっている。 ・ 国内の研究者は複数いるが、全体をオーバービューできる専門家を見つけることは難しい。本委員会がそういう役割を担えることが理想的だが、すぐには難しい。 ・ 原子力学会において、レベル 2PRA の会合が設置されているので、その会合への情報共有も進めていきたい。</p> <p>6. 全体討議 ・ 国際協力に関する会合は実用上の技術的課題を知る機会であり、そうした場での指摘は課題リストのような形で集積して情報共有を行うようにするのがよい。 ・ 実機に適用するという観点で研究開発を進めていく必要があるが、我が国は 10 年間停滞していたので、まずは欧米にキャッチアップしないといけない。</p>
備 考	